

## 巻頭言

## ご縁とおかげ

一般社団法人 大阪府作業療法士会 副会長 古志 康則  
(市立豊中病院)



三寒四温の中、会員皆様の体調はいかがでしょう。花粉あり、PM2.5、PM0.5また、大規模災害への心構え等々、平和ながら、環境への適応に配慮せねばならない状況に置かれております。くれぐれもご自愛ください。

さて、大阪府作業療法士会にとって、怒涛のような平成25年度が、間もなく終了を迎えようとしております。幾度となく表記されましたが、一般社団法人設立、第47回日本作業療法学会等々、大阪府作業療法士会にとって、メモリアルな事業が行われました。今後も留まることなく、時代のニーズに即した活動が絶え間なく行われます。事業内容については、前号ニュースにて会長がお伝えした通りで、新たなページが開かれようとしています。これら事業の全てにおいて、会員皆様の一つ一つの活動の蓄積とご協力が不可欠になってきます。ご理解をよろしくお願いいたします。

話は移りますが、少し前の出来事になりましたが、昨年、興味ある方には記念すべき年でありました。というのは、

1. 出雲大社の60年ぶりの平成大遷宮
2. 伊勢神宮の20年に一度の式年遷宮

が同時に行われた年でありました。以前にもお伝えしましたが、私は残念ながら信心者ではありません。1ロマンチストとでも言いましょうか。ただ自分の郷里が鳥根県、それも出雲大社のお膝元で育ったものとして、惹かれるものがありますものだから。

古来より伊勢と出雲は対比されてきたようです(様々な要因により、詳細は割愛しますが)。いずれにせよ、大和による国内統一の象徴的役割を担ってきたようです。格としての差というより、役割の違いというべきでしょうか。それはともかく、幾年に渡って、人々の心の支えとして、鎮座されている両宮であります。その両宮が同時に遷宮を迎えられる年に巡り会える事が出来たのは、何かの

ご縁があったからではないでしょうか?皆様はどのように感じられますでしょうか。私は、何かしら幸福感に浸っております。

そして、今こうして、大阪府作業療法士会の存続に、それぞれの立場で、支えていただいている会員の皆様と、同じ空気を吸いながら時を共有できていることへの“ご縁”に感謝の念を抱き、やはり幸福感を感じている日々であります。ありがとうございます。

また、一変しますが、仏道では(これも私信者ではありませんが)、仏教の経典である、般若心経において、“空”の解説がなされているようです(関係者の方がいらしたら詳細はお許しください)。さまざまな縁がからみあって今この状態があるということだそうです。

自分がこうして存在しているのは、自分一人の力ではない、自分とかがわっているこの世の、すべて人とのさまざまなご縁(関係)によって、今の自分がある(心がすっきり軽くなる 般若心経 ナガオカ文庫 より)。そしてそこから“おかげさまで”という言葉が自然に生まれてくる。とのことでした。まさにその思いで一杯です。

大阪府作業療法士会活動に携わらせていただき、今このような立場で存続させていただいているのは、皆様のおかげそのものと心よりお礼申し上げます。ありがとうございます。

府士会は次年度役員改選があります。それに伴って、時代に即した組織の検討ということで、組織再編が行われる予定です。時代は流れています。その時に適した運営が必要です。また、人も流れなければなりません。

ご縁とおかげにより、府士会活動へ、新風が吹くことを祈っております。

ありがとうございました。